

富士山をめぐる
旅と文学

平成30年11月24日(土)

13時30分～16時(13時開場)

会場 | 裾野市生涯学習センター(ゆうあいプラザ)
3階 学習ホール 裾野市深良 435

入場無料・申込不要(当日先着 192名)



アクセス

- 車でお越しの場合
東名高速道路裾野ICより約8分
東名高速道路沼津ICより約23分
- 公共交通機関でお越しの場合
JR 御殿場線裾野駅よりバス(御殿場駅行)
もしくはタクシーで約15分
JR 御殿場線岩波駅よりバス(三島駅行)
もしくはタクシーで約10分

問い合わせ先：静岡県富士山世界遺産センター

TEL: 0544-21-3776 FAX: 0544-23-6800

E-mail: mtfuji-whc@pref.shizuoka.lg.jp

主催：静岡県・裾野市・裾野市教育委員会

宗祇坐像(定輪寺蔵)

富士山をめぐる旅と文学

2013年6月に世界文化遺産に登録された富士山は、今や日本国内のみならず世界の名山として認められる存在です。しかし、古代の日本では、都から遠く離れた富士山はあまり知られることのない地方の一山でした。その後、東国に旅した人々によって和歌に詠まれ、紀行文に描かれるなど文学の題材になることで、気貴く美しく、時に荒ぶる山としてのイメージが徐々に定着し、都人にとって憧れの存在になっていきます。旅によって富士山の文学が生まれ、そして富士山の芸術が創られていったとも言えるでしょう。



今回のセミナーは「富士山をめぐる旅と文学」と題し、旅の中で生まれた富士山の文学について考えていきます。

開催地・裾野市にある桃園山定輪寺には、室町時代の連歌師であり富士山に深い愛着を抱いていた宗祇(1421-1502)が眠っています。宗祇は、生涯幾度となくおこなった旅の中で、当時の行政区画でいう11の国から富士山を見たといっています。82歳で越後から駿河を経て美濃へと向かう旅では、もう一度富士山を見たいと語り、その途次の箱根湯本で息を引き取ってしまうのですが、遺志を継いだ人々の手によって箱根を越えて富士山の見えるこの地に埋葬されることとなりました。

本セミナーでは、宗祇をはじめ、古から旅人たちによって綴られた富士山の旅に関する古典文学に焦点を当て、「芸術の源泉」富士山の一側面について探っていきます。



定輪寺境内墓所

プログラム

開会挨拶・ご案内

(13:30～13:40)

田代一葉 (静岡県富士山世界遺産センター准教授)

「富士山の旅と文学」

(13:40～14:20)

廣木一人 (青山学院大学名誉教授)

「富士をもいま一度(『宗祇終焉記』)

—連歌師宗祇と富士山・定輪寺—

(14:30～15:55)

閉会挨拶 (15:55～16:00)

講演者略歴 (講演順)

田代一葉 (たしろ かづは)

静岡県富士山世界遺産センター准教授。専門は日本文学(特に近世文学)、和歌史。主要著書『近世和歌画賛の研究』(汲古書院、2013年)、鈴木健一編『形成される教養十七世紀日本の〈知〉』(共著、勉誠出版、2015年)、『日本詩歌への新視点 廣木一人教授退職記念論集』(共著、風間書房、2017年)など。

廣木一人 (ひろき かずひと)

青山学院大学名誉教授。専門は日本中世文学、連歌・和歌。主要著書『連歌史試論』(新典社、2004年)、『連歌の心と会席』(風間書房、2006年)、『連歌入門 ことばと心をつむぐ文芸』(三弥井書店、2010年)、『連歌師という旅人 宗祇越後府中への旅』(三弥井書店、2012年)、『室町の権力と連歌師宗祇』(三弥井書店、2015年)、『連歌という文芸とその周辺 連歌・和歌・俳諧』(新典社、2018年)など

